

II 学校教育環境の整備

1 学校教育施設の整備

学校施設について、維持管理コストを抑えながら長寿命化を図り、良好な教育環境を維持するため、「学校施設整備計画（仮称）」を策定するほか、高松第一高等学校校舎等の全面改築を行うなど、総合的な学校施設整備に取り組みます。

また、新しい学校給食センターの建設に取り組むとともに、給食調理場の計画的な整備に取り組みます。

(1) 学校教育施設の整備

現状と課題

小・中学校においては、施設の長寿命化に向けた老朽化対策のほか、児童生徒の急増に伴う教室不足への対応が求められています。また、自然との共生、環境負荷の軽減や環境・エネルギー教育への積極的な活用の観点から、環境に配慮した学校づくりが求められています。

高松第一高等学校の校舎等については、老朽化の著しい校舎等の改築整備が必要となっています。

学校給食調理場の経年劣化により大規模な施設整備や厨房機器の更新が集中することが見込まれること及び衛生管理を強化するため、既存の調理場については計画的な整備が必要となっています。

子どもの健康を保持増進し、学習能率の向上を図るためには、健康的で快適な学習環境を作ることが必要であり、そのための学校環境衛生活動は学校経営における重要な役割を担っています。昨今の社会環境の変化は著しく、健康に関する様々な学校環境衛生に関わる諸問題への対応が必要となっています。

対応方針

- 幼稚園・こども園・小学校・中学校及び高松第一高等学校の施設の老朽化した校舎を整備及び児童生徒数の急増への対応をするほか、適切な維持管理に努め、安全・安心な学校づくりを目指します。
- 子どもの環境教育にも役立つ施設となるよう、環境に配慮した学校づくりへの積極的な取組を目指します。
- 学校給食調理場の老朽化した施設等の整備及び衛生管理の強化により、安全で、安心な給食の提供を目指します。
- 健康的で快適な学習環境の維持を目指します。
- 「高松市立幼保連携型認定こども園整備基本計画」に基づき、幼保連携型認定こども園への移行を促進します。

施 策

- 施設の有効利用を図るために、長寿命化に向けた、計画的かつ効果的な老朽化対策に取り組めます。
- 児童生徒数が急増している林小学校、多肥小学校等については、校舎の増築、運動場の拡張等により、教育環境の整備に努めます。
- 校庭の芝生化や太陽光発電設備の設置、雨水等の利用、節水型トイレの導入等、環境に配慮した学校づくりに努めます。
- 高松第一高等学校については、老朽化の著しい校舎等の改築整備を進めます。
- 児童生徒数の増加に伴う対応が必要となっている学校区において、新設第二学校給食センター(仮称)の建設を進めるとともに、給食調理場の計画的な整備に取り組めます。
- 「学校環境衛生の基準」に基づく環境衛生検査を実施し、環境衛生の維持・改善を図ります。
- 幼稚園園舎の改修や幼保連携型認定こども園の整備に努めます。



(栗林小学校 完成図)

【施策の目標】

項 目	H26年度末数値	H31年度末数値	H35年度末数値
学校施設長寿命化の進捗率 ※学校施設整備計画(仮称)に基づく平成35年度末の長寿命化整備工事計画棟数を100%とした場合の進捗率 (小・中学校)	—	15%	100%
幼保連携型認定こども園に移行している園数	0園	6園	11園



2 教育機能と就学支援の充実

ICT機器の積極的活用や教員が子どもと触れ合う時間、教材研究の時間の確保に取り組むとともに、教育に関する研究成果の蓄積・活用により、教育機能を充実させていきます。

また、就学について希望者のニーズに応じた各種支援を効果的に周知し、充実させていきます。

(1) 教材・図書整備

現状と課題

平成26年度には27年度使用小学校教科用図書選定が、27年度には28年度使用中学校教科用図書選定がそれぞれ行われ、それに伴い、教師用教科用図書を始め、新しい教材の整備を進めています。

また、読み物としての図書の充実と調べ学習に必要な図書資料の両面の充実を図り、学校図書館図書標準の100%を達成しています。

次期学習指導要領改訂を受けた学校教育に備えた教材・図書の整備が課題となるとともに、全市立小・中学校において学校図書館図書標準の100%達成を維持した図書の更新を推進する必要があります。

対応方針

- 計画的に教材を整備し、学校教育環境の充実を目指します。
- 小・中学校において、図書及び図書館資料の充実を図り、子どもの意欲的な読書を支え、学習・情報センターとして機能する学校図書館を目指します。

施策

- 次期学習指導要領に対応する教材を、計画的に整備します。
- 学校図書館図書標準の100%達成を維持した図書の更新を推進するとともに、学校図書館資料を活用した学習室及び情報センターとしての機能の充実を図ります。

(2) 学校の情報化の充実

現状と課題

近年、教職員の事務的な業務が増加しており、校務の効率化、簡素化により負担軽減を図るため、教育用コンピュータの機器を充実させ、定期的に更新するとともに、校務用コンピュータの整備を進める必要があります。

子ども及び教員のインターネット利用環境は、各小中学校及び関係機関を接続する専用回線の高松市教育情報通信ネットワークシステム（以下、TENSと略する）であり、学校間で情報のやり取りや、授業などに利用していますが、ICT機器の運営管理、有効に活用するための情報リテラシーの向上が課題となっています。

対応方針

- 計画的に教育用コンピュータを整備し、学校環境の充実を目指します。
- 高松市学校情報セキュリティ対策基準に基づき、適切な運用を行い、高松市内の教職員の校務の効率化を図るとともに、個人情報等の紛失・漏えいの回避を図ります。
- ICT機器を授業に有効に活用できるよう、教員のリテラシーの向上を目指します。

施策

- 教員を対象とした校務支援システム操作及び運用のための研修を実施します。
- ICT機器を授業等で有効に活用できるよう、教員のコンピュータリテラシー向上のための研修を実施します。
- 学習活動にいかすため、各学校に配置している教育用PCのタブレットの割合を増加させていきます。

(3) 教育に関する研究成果の蓄積・活用

現状と課題

高松市の教育課題の解決や、学習指導要領の改訂に向けた調査研究を小・中学校に委嘱し、2箇年計画で研究に取り組んでいます。調査研究を進めるに当たって、大学教員等を指導者とした研究委員会を設置し、学校を支援しており、また、実践の成果を研究紀要にまとめ、各校（園）、関係機関に配布するとともに、研究発表会を開催しています。

調査研究のテーマを設定する際には、学校のニーズと一致するよう努めるとともに、調査研究の成果を広く市内に普及・啓発するための手立てを工夫する必要があります。

対応方針

- 各校から調査研究委員を選出し、学習指導、子ども理解などに関する調査研究を行い、教育課題の解決を目指します。
- 学校現場の教育課題や発達段階に対応した調査研究に学校と共同して取り組み、その成果を蓄積するとともに、優れた実践事例の活用を促進することにより、教育活動の充実を目指します。

施 策

- 研究協力校等での調査研究の結果について、研究成果発表会、公開授業等を開催し、研究紀要を発刊することにより、成果の蓄積と活用を図ります。
- 蓄積した研究成果を学校や幼稚園・こども園が活用できるように、研究成果のデータベース化を図ります。

(4) 奨学金事業等の推進

現状と課題

経済的理由で就学が困難な子どもについては、その保護者を対象として、就園奨励・就学援助や奨学金の支給など、教育費の負担軽減を図っていますが、低迷する経済状況や家庭環境の多様化から、その制度を活用する保護者は増加傾向にあり、今後も経済的負担の軽減を図る必要があります。

対応方針

- 経済的理由等により教育を受けることが困難な子どもの、教育の機会均等を目指します。

施 策

- 経済的理由で就学が困難な子どもの保護者に対する就園奨励・就学援助や保育料等の補助に努めます。
- 経済的理由で高等学校等への進学が困難な者に対して、奨学金の支給や入学準備金の貸付けなどに努めます。

【施策の目標】

項 目	H26年度末数値	H31年度末数値	H35年度末数値
学校図書館図書標準を達成した学校の割合 (小・中学校)	100%	100%	100%
教育用PC内、タブレット端末の配置台数(PC教室除く)割合 (小・中学校)	11.2%	30%	50%
応用力(思考力・判断力・表現力)を身に付ける教育活動に力を入れる必要があると回答した教員の割合	小 15.9% 中 6.9%	小 25% 中 15%	小 35% 中 30%